

【調査結果の概要】

1 概況

平成26年の概況は次のとおりである。

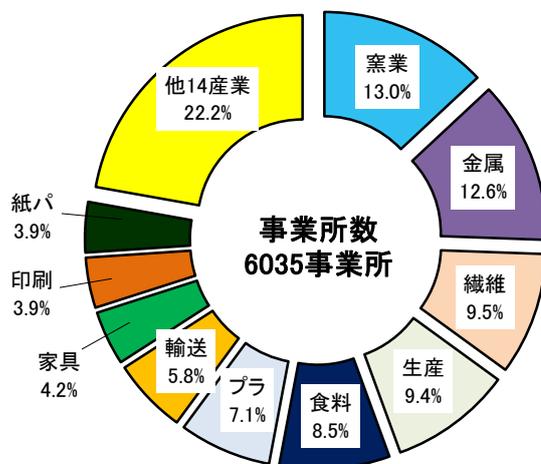
- ◎ 事業所数は、6035事業所で、前年に比べ149事業所（前年比△2.4%）減少した。
- ◎ 従業者数は、19万1987人で、前年に比べ1254人（同0.7%）増加した。
- ◎ 製造品出荷額等は、5兆1012億円で、前年に比べ3037億円（同6.3%）増加した。
- ◎ 付加価値額は、1兆7703億円で、前年に比べ530億円（同3.1%）増加した。

※従業者4人以上の製造事業所について、集計・分析を行ったものである。

2 事業所数（従業者4人以上）

- ① 事業所数は6035事業所で、前年に比べ149事業所（前年比△2.4%）減少している。（表-1）
- ② 産業別にみると、増加したのは、はん用機械器具製造業（前年比 3.4%）など7産業である。一方、減少したのは、繊維工業（同△6.5%）、窯業・土石製品製造業（同△3.1%）、プラスチック製品製造業（同△4.5%）など16産業である。（表-2）
- ③ 従業者規模別にみると、4～9人事業所で大きく減少している。（表-3）
- ④ 圏域別にみると、すべての圏域で減少しており、岐阜圏域（前年比△3.1%）、西濃圏域（同△3.2%）、中濃圏域（同△1.6%）、東濃圏域（同△1.5%）、飛騨圏域（同△2.9%）であった。（表-4）
- ⑤ 産業別に構成をみると、窯業・土石製品製造業が783事業所（構成比 13.0%）と最も多く、次いで金属製品製造業が762事業所（同 12.6%）、繊維工業が573事業所（同 9.5%）となっている。（表-2）

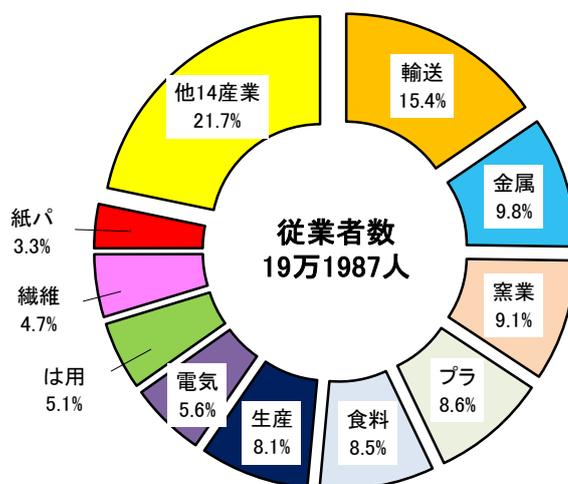
図-1 事業所数の構成（従業者4人以上）



3 従業者数（従業者4人以上）

- ① 従業者数は19万1987人で、前年に比べ1254人（前年比0.7%）増加している。（表-1）
- ② 産業別にみると、増加したのは、輸送用機械器具製造業（前年比6.5%）、ゴム製品製造業（同20.1%）、食料品製造業（同2.4%）など14産業である。一方、減少したのは、繊維工業（同△7.1%）、プラスチック製品製造業（同△3.2%）、窯業・土石製品製造業（同△2.3%）など10産業である。（表-2）
- ③ 従業者規模別にみると、100～299人事業所で大きく増加している。（表-3）
- ④ 圏域別にみると、増加したのは、中濃圏域（前年比3.2%）、岐阜圏域（同0.9%）、東濃圏域（同0.3%）であった。一方、減少したのは、飛騨圏域（同△2.5%）、西濃圏域（同△1.6%）であった。（表-4）
- ⑤ 産業別に構成をみると、輸送用機械器具製造業が2万9552人（構成比15.4%）と最も多く、次いで金属製品製造業が1万8850人（同9.8%）、窯業・土石製品製造業が1万7491人（同9.1%）となっている。（表-2）

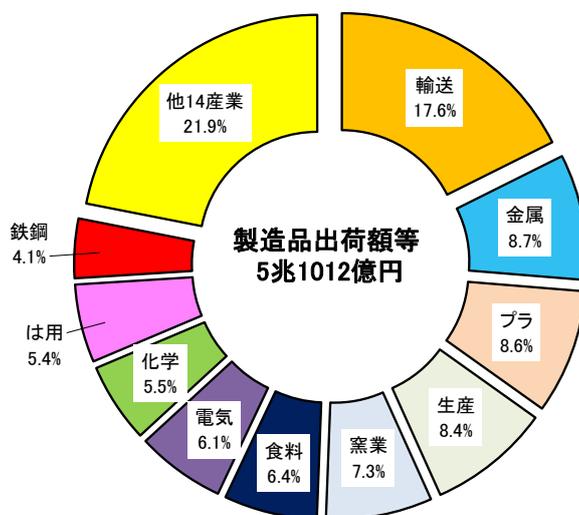
図-2 従業者数の構成（従業者4人以上）



4 製造品出荷額等（従業者4人以上）

- ① 製造品出荷額等は5兆1012億円で、前年に比べ3037億円（前年比6.3%）増加している。（表-1）
- ② 産業別にみると、増加したのは、輸送用機械器具製造業（前年比12.0%）、生産用機械器具製造業（同11.9%）、電気機械器具製造業（同12.1%）など18産業である。一方、減少したのは、化学工業（同△6.1%）、業務用機械器具製造業（同△19.4%）、電子部品・デバイス・電子回路製造業（同△3.3%）など6産業である。（表-2）
- ③ 圏域別にみると、すべての圏域で増加しており、岐阜圏域（前年比6.0%）、西濃圏域（同5.0%）、中濃圏域（同9.2%）、東濃圏域（同5.3%）、飛騨圏域（同1.9%）であった。（表-4）
- ④ 産業別に構成をみると、輸送用機械器具製造業が8979億円（構成比17.6%）と最も多く、次いで金属製品製造業が4434億円（同8.7%）、プラスチック製品製造業が4398億円（同8.6%）となっている。（表-2）

図-3 製造品出荷額等の構成（従業者4人以上）



5 付加価値額（従業者4人以上）

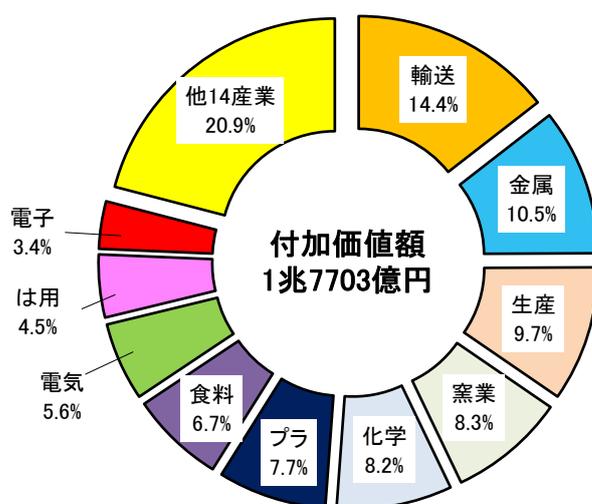
① 付加価値額（粗付加価値額での集計を含む）は1兆7703億円で、前年に比べ530億円（前年比3.1%）増加している。（表-1）

② 産業別にみると、増加したのは、輸送用機械器具製造業（前年比12.7%）、生産用機械器具製造業（同9.7%）、電気機械器具製造業（同16.2%）など16産業である。一方、減少したのは、化学工業（同△14.0%）、電子部品・デバイス・電子回路製造業（同△25.5%）、繊維工業（△8.9%）など8産業である。（表-2）

③ 圏域別にみると、増加したのは、中濃圏域（前年比9.2%）、飛騨圏域（同3.6%）、東濃圏域（同3.0%）、岐阜圏域（同0.1%）であった。一方、減少したのは、西濃圏域（同△0.6%）。（表-4）

④ 産業別に構成をみると、輸送用機械器具製造業が2555億円（構成比14.4%）と最も多く、次いで金属製品製造業が1862億円（同10.5%）、生産用機械器具製造業が1725億円（同9.7%）となっている。（表-2）

図-4 付加価値額の構成（従業者4人以上）



6 圏域別にみた産業別製造品出荷額等（従業者4人以上）

【岐阜圏域】

製造品出荷額等は1兆3364億円で、前年に比べ755億円（前年比6.0%）増加している。
産業別に構成をみると、輸送用機械器具製造業が4260億円（構成比31.9%）と最も多く、次いで化学工業が1059億円（同7.9%）、食料品製造業が997億円（同7.5%）などとなっている。

【西濃圏域】

製造品出荷額等は1兆2077億円で、前年に比べ573億円（前年比5.0%）増加している。
産業別に構成をみると、プラスチック製品製造業が1784億円（同14.8%）と最も多く、次いで窯業・土石製品製造業が1283億円（同10.6%）、電子部品・デバイス・電子回路製造業が1157億円（構成比9.6%）などとなっている。

【中濃圏域】

製造品出荷額等は1兆4939億円で、前年に比べ1261億円（前年比9.2%）増加している。
産業別に構成をみると、輸送用機械器具製造業が2690億円（構成比18.0%）と最も多く、次いで生産用機械器具製造業が2234億円（同15.0%）、金属製品製造業が1978億円（同13.2%）などとなっている。

【東濃圏域】

製造品出荷額等は7840億円で、前年に比べ395億円（前年比5.3%）増加している。
産業別に構成をみると、窯業・土石製品製造業が1469億円（同18.7%）と最も多く、次いで電気機械器具製造業が1428億円（構成比18.2%）、輸送用機械器具製造業が760億円（同9.7%）などとなっている。

【飛騨圏域】

製造品出荷額等は2791億円で、前年に比べ53億円（前年比1.9%）増加している。
産業別に構成をみると、化学工業が765億円（構成比27.4%）と最も多く、次いで家具・装備品製造業が368億円（同13.2%）、食料品製造業が327億円（同11.7%）などとなっている。

図－5 製造品出荷額等の圏域別産業中分類別構成（従業者4人以上）

